

Title	Not+Still について
Author(s)	東森, 勲
Citation	Osaka Literary Review. 20 P.20-P.31
Issue Date	1981-11-30
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/25578
DOI	10.18910/25578
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

Not + Still について

東 森 勲

1. はじめに

本稿では 'implicative adverb of aspect' としての still ¹⁾ を取り扱う。特に、この語と否定語 not との関係を統一的に説明したい。

still は、通例肯定の環境にのみ生ずることができる affirmative (positive) polarity item ²⁾ である。表層構造では still not あるいは still neg-incorporated word の語順で現われる。つまり、still は否定語の影響の外側に生じることができるのである。

- (1) a. I *still* do *not* know when John is coming.
- *Longman Junior's English Dictionary*
b. You *still* are *n't* doing it right. - Crowell, *Index* p.363
c. You *still* have *n't* answered my question. - *ibid.*
d. I *still* ca *n't* get used to it. - Benchley, *Jaws* p.36
e. At ten she *still* heard *no* sound from his room. ³⁾ - *Reader's Digest*, March 1981, p.62
- (2) a. I am *still not* sure why we went. - *RD*, Dec. 1978, p.31
b. It's *still not* cheerful. - Hill, *Unmarried* p.172
c. Bill is *still not* a professional man, and his inner label still reads *failure*. (原文イタ) - Fast, *Talking* p.90
d. You're *still not* doing it right. - Crowell, *Index* p.363
e. After a walk he had *still not* seen Elaine. - Webb, *Graduate* p. 120
- (3) a. I'm *still unsure* of what to put down. - Racina, *Nine* p.3
b. It is *still uncertain* whether or not he will come tomorrow.
- Frank, *Modern* p.294
c. Now, two years later, her husband, Oliver is *still unable* to come to terms with his guilt and grief. - Segal, *Oliver's* p.1

- d. "I could *still never* believe in a million years that you're a boy," Dick said. -Jaffe, *Fame* p.261
- e. He sounded as though he could *still barely* believe his luck. -Rogers, *In-Laws* p.180

一方、表層で not still と連続して現われる場合もある。4) ところが、この not still に対する説明はまだ十分になされていない。5) そこで以下の not still の例を本稿では主に考察することにする。

- (4) a. Trees do *n't still* grow in Blooklyn.
-Horn (1978:154)
- b. You do *n't still* think you'll appoint him, not after those results? -Allerton & Cruttenden (1974:4)
- c. His father ca *n't still* be alive. -Leech & Svartvik (1975:130)
- d. 'He's chasing us?' said Brody.
Quint nodded.
'Why? He ca *n't still* think we're food.'
-Benchley, *Jaws* p.279
- e. You can't convince me that someone is *n't still* holed up in this cave. -Baker (1970:171)

以下では、この問題に対する Ladusaw (1978, 1980)の分析が不十分であり、むしろ、modality や denial などを考慮に入れた発話構造全体を検討する必要があることを示したい。

2. Still の意味と否定との関係

英米の文法書では still と否定の関係についてどのように記述されているかをまず見て、それぞれの不十分な点を指摘してみよう。

A. Crowell (1964:363) では still は「継続」(continuation without change) の意を表わし、否定との関係については still not という語順になる (If the first auxiliary has *-n't*, *still* comes before the first auxiliary.) と述べている。

B. Swan (1980:579) では still は通例肯定文に現われるが否定文でも

可能 (*Still* is most common in affirmative sentences, but also possible in... negatives) として次の例をあげている。

(5) I *still* could *n't* decide, so I asked George what he thought.

すなわち、以上のA, B では (1b), (1c), (2d) や (1d) のように表層で *still* not は可能なことはわかるが、*not still* について何も述べていないので不十分である。

C. Quirk *et al.* (1972:499) では *not still* という語順は不可能として次の例を示している。

(6) a. ?He ca *n't still* drive. ('He can't continue to drive.')

ただし、疑問文中では *not still* も可能 (*Still* can precede negation, but normally cannot be within the scope of clause negation, but except in questions.) としている。

(6) b. Don't you *still* see him? ('Don't you continue to see him?') 6)

すなわち (6b) は例外的に可能になるとしか述べられておらず、なぜそうなるかという説明がないので不十分である。また、なぜ (6a) が不可能なのに (4c) (4d) が可能になるのかということも明示的に示されていないので不十分である。

D. Thomson & Martinet (1980:60-61) では *still not* は否定的な動作の継続を強調するため (to emphasize the continuation of a negative action) に用いるとしている。たとえば、次の例では「理解していない」ということの継続が示されている。

(7) a. He *still* doesn't understand.

さらに、*still not* と *not still* の両方が可能で、両者の意味が異なる場合があるとして、以下の例が示されている。

(7) b. He's *still not* waiting.

c. He's *not still* waiting.

すなわち、(7b) では (7a) と同じく「待っていない」という否定の状態が続いているという意 ('He has not started waiting yet.')

であるが、(7c) で

は「待ち続けている」という肯定の状態ではないの意 (He has stopped waiting.) である。通例, (6a) のように still は否定語の影響の中に置かれると非文になるはずだ。なのに, なぜ同じ not still という表層で (7c) は可能なのか。

以上に列挙した不十分な点や疑問を, scope の問題, not が何を表わすかという問題, modality との関係, そして entailment との関係という 4 つの観点から以下で考察することにする。

3. Still と否定の scope との関係

Ladusaw (1978, 1980) は Montague Grammar の枠組みを用いて, still と否定の作用域の問題を次のように扱おうとした。

The correlation between surface order and logical scope of negation and adverb can be captured by rules which assign the left most operator the widest scope, with the exception that the sentence final adverb position with intonation break could also be a wide scope position. -Ladusaw (1978:98)

すなわち, 表層で左にあるものが右にあるものよりも広い scope を持つという原理 (Principle of Left-most/Widest-scope) に基づき, still に以下の 2 種類 あるとした。

- (8) a. *Still* John isn't here.
 b. John isn't here, *still*.
 c. John *still* isn't here.
- (9) a. John isn't *still* here.
 b. John isn't here *still*.

(8)の still は 'wide scope *still*' であり, 表層では not の左に生ずる。ただし, (8b) では still は not の右に生ずるが, 文末にあり intonation break も伴うので例外的に wide scope *still* と考える。一方, (9)の still は表層では not の右に現われるので 'narrow scope *still*' と呼ばれる。

それでは(8)と(9)の意味の違いはどうなるのか。Ladusawによれば、ASSERTIONは両方とも同じ‘John isn’t here’である。ところが、CONVENTIONAL IMPLICATURE⁷⁾は違っている。すなわち、(8)では‘Over some past interval John has not been here’という含みがあり、「ジョンがここにはいない状態がまだ続いている」の意となる。一方、(9)では‘Over some past interval John has been here’の含みがあり、「ジョンがまだこの場に続けているのでない」の意 (John isn’t here anymore.)となる。要するに(8)の wide scope *still*は‘non-existence’の継続を述べ、(9)の narrow scope *still*は‘existence’の継続を述べているのである。

以上のLadusawの分析の不十分な点を考えてみよう。表層の語順だけを手がかりに意味が決定されるとすると、(6a), (4c), (4d)はすべて narrow scope *still*を含んでいるとしか説明できず、なぜ(6a)が不可で(4c)(4d)が可能かわからない。また、*still*に2種類あるとするのも直観に反する。というのは、wide scope *still*も narrow scope *still*も共通した「継続」という意味しかないのだから。

4. Not の異なった用法

発話構造の中で not がどの部分を修飾しているかということに基づき、以下でいくつか not の用法を考えてみよう。

A. 否定 (Descriptive uses of negation)

大江 (1978:171) では否定とは「ある否定的命題内容の主張」と定義され、Fass (~P)と表わされ、Fassは主張という発話の力、~は否定、Pは命題を示している。また、否定を示す not が命題部分を修飾するのか Modality の部分 (It is the case) を修飾するかにより、内部否定 (Internal negation) と外部否定 (External negation)⁸⁾に分けられる。

(1), (2), (3)の例は、次のような発話構造と考えられ、内部否定の場合である。

[I ASSERT [that it is the case [... *still not* ...]]] すなわち、「否定的

なある状態が続いているということが正しいと話し手が主張している」の意となる。

特にこの否定的状態の継続で注意すべき事は、(1c) や (2e) の完了形の場合である。完了の意は、still の継続の意と共起不可 (*He *has still seen* the film. -Hirtle (1977:38)) だが、内部否定で still not となった否定完了形とは共起可能となる。

外部否定の発話構造は以下のようになる。

[I ASSERT [that it is *not* the case [... *still* ...]]

たとえば、(4a) が外部否定であれば、「木がブルックリンで今なお育つということは正しくないと話し手が主張している」の意となる。(4a) が表層で not still となっているにもかかわらず、可能なのは実は not は直接 still を修飾しているのではなく、「本当である」という Modality の部分を修飾しているからである。(7c), (9a), (9b) も同様に説明できる。

B. 否認 (Denial use of negation) ⁹⁾

大江 (1978:171) によると否認とは「予め主張されるなど、前もって設定されたある命題を取り上げ、それをなんらかの点で真でないものとして廃棄する」ことと定義されている。すなわち、発話構造では、

[I DENY [that it is the case [... *still* ...]]

と表わされ、たとえば (4a) が談話の途中に現われ、直前に主張したことを否認して用いられた場合、その発話が意味するのは、「木が依然としてブルックリンで育つというのが正しいと言ったのではない。」である。すなわち否認の場合 (4a) には先行する談話があり、not は否認の発話の力を示す DENY となり、直接 still を修飾していないから可能となる。否認と外部否定の違いは、結局、先行する談話の有無と not の修飾する場所の違いによると考えられる。

C. Neg-Raised された not

Sheintuch & Wise (1976:547) に従えば、proposition の中に埋め込み構造があり、Neg-Raising による 2 通りの言い方が可能な場合、両者には語

用論的な違いがある。たとえば、

- (10) a. Mary thinks that Jane doesn't like Bill.
 b. Mary doesn't think that Jane likes Bill.

では Neg-Raised された (10b) の方が (10a) よりも “a greater degree of uncertainty on the part of the speaker” を持つという。この考えによれば、(4b) は Neg-Raising が適用される前には、*You still think you will not appoint him, not after those result?* となり、not は直接 still を修飾していない。だから、(4b) は可能である。ただし、Neg-Raising が行なわれた (4b) では「あなたは彼を任命するつもりはないと依然として思っている」という意に、さらに、話し手がそのことについて、とても疑わしく思っているという意が付け加わっているのである。

要するに (4b) で問題になるのは発話構造の一番下にある Proposition の中に埋め込み構造があり、表層で *not still think...* となっているが not は直接 still を修飾せずに that 節中にかかっているので可能な発話となるのである。

D. Conducive negation in questions ¹⁰⁾

(6b) は *You still see him, don't you?* と意味的に等しく、not は肯定の答えを求める付加疑問の役目をしているのであり、直接 still を修飾していない。だから (6b) は可能である。すなわち、表層の疑問文で not still となっている場合、still は Proposition の中にあるが、not はその命題に対して添えられる一種の Parenthetical な用法と考えられる。

5. Modality と not still ¹¹⁾

(4c), (4d), (6a) を説明するために、まず助動詞 can について考えてみよう。can には possibility の意と ability の意があり、それぞれ否定の生ずる位置により、以下の場合が考えられる。

- (11) a. It is *possible* that he's *not* there.
 (= He *may not* be there.) -Leech (1971:71) ¹²⁾

b. It is *not possible* that he's here.

(= He *can't* be there.)

(12) a. I am *able not* to do it.

b. I am *not able* to do it.

(= I *can't* do it.)

(4c), (4d) は (11b) の場合と同じく *not* は *possible* を修飾する外部否定であり、直接 *still* にかかっていない。だから可能である。それぞれ言い換えると次のようになる。

(4) c'. It is *not possible* that his father is *still* alive.

(彼のお父さんがまだ生きているはずがない)

d'. It is *not possible* that he *still* thinks we're food. (その鮫は私たちを餌であると依然として考えているはずがない)

すなわち、(4c), (4d) では、*not* は Modality の部分にあり、*still* は Proposition の部分にあるので可能となる。

一方、(6a) は (12b) と同じく *not* は *able* にかかっている外部否定であるが、通例、*still* も *able* を修飾し、「まだ…できる」の意と考えられる。それゆえ、*not* と *still* が共に *able* を修飾することになり非文となる。また、*still* が *drive* にかかる場合は、*not* が直接 *still* を修飾しないので、(6a) は可能となるはずである。だから (6a) の判断にはゆれがある。

(6) a'. [*He is *not still* able [to drive]].

a". [He is *not able* [to *still* drive]].¹³⁾

(彼はドライブを続けることはできない)

すなわち、(6a) のように助動詞 *can* が能力を表わす場合には通例 (6a') のように *not* も *still* も共に Modality の部分を修飾し、*not* が直接 *still* を修飾すると考えられるので非文となる。

6. Logical entailment と *not still*

(4) e'. *Someone *isn't still* holed up in this cave. -Baker (1970:172)

この例が非文になるのは Proposition の中で、*not* が直接 *still* を打ち消し

ているからである。一方、(4e) の not still が可能になるのは、二重否定、can't の neg と not still の neg が呼応して、全体がプラスの意になることが意味的に含意されるからと考えられる。すなわち、(4e) は、You can convince that someone is *still* holed up in this cave. あるいは、I firmly believe that someone is *still* holed up in this cave. -Baker (1970:180) (この洞穴にはまだ誰かが、きっと閉じ込められていると思う) と解釈され、not は直接 still を修飾していないと entailment により解釈が修正されるので非文とならない。

7. おわりに

以上の例文中の not と still の分布をまとめると以下の表になる。

例 \ 発話構造	Performative	Modality	Proposition
(1), (2), (3)			still not
(4a), (7c)		not	still
(4a)	not(= DENY)		still
(4c), (4d)		not	still
(6a)		*not still	
(6b)		(not)	still
(4e')			*not still
(4e)		not	not still

すなわち、still は「継続」の意を表わすが、次の制約に従う：

still は直前に not が先行 (precede) し、かつ、同一の領域 (domain) 内で、お互いに統御 (command) し合っていれば、非文となる。ただし、この領域とは、発話構造を考慮に入れたものであり、Proposition (埋め込み構造がある場合はそれぞれの P_1 , P_2), Modality, Performative のそれぞれをさす。

(4e') や (6a) はこの制約を破っているから非文となる。

一方, not + still が可能な場合とは, (i) 外部否定 (4a), (ii) 否認 (4a) [ただし先行する談話が必要], (iii) 可能性を示す can が否定されている場合 (4c)。ただし, (iv) (4e) のように上記の制約を破っているが, 二重否定が肯定を entail する場合は可能となる。

少なくとも集めた言語事実から以上の制約が必要なことはわかるが詳細な形式化とこの制約がゆるむ場合については今後の研究を待たなければならぬ。

注

- 1) still には「まだ…である」という implicative adverb (cf. Ladusaw (1980:91)) の用法と「しかしながら」という sentence connecting adverb (cf. Stockwell *et al.* (1973:26)) の用法があるが, ここでは前者のみを扱う。また, 語句修飾副詞を中心に扱う。文副詞の still については Ladusaw (1980:87) を参照せよ。
- 2) Ladusaw (1980:87) は still を affirmative polarity item としない人もいると述べているが, 本稿では常に肯定の領域に生ずると主張したい。
- 3) still not, still neg の否定の強さにも差は存在する。Sheintuch & Wise (1976:558) によれば, 'did *not* hear any sound' よりも (1e) の 'heard no sound' の方が否定の力が強いし, (2a) の 'am *not* sure' よりも (3a) の 'am *unsure*' の方が否定の力は強い。一般に動詞の右に neg が動けば動くほど否定の力は強くなるのである。
- 4) ただし, これらの語が不連続に現われ, 表層で not が still に先行し, かつ統御していない場合は可能な文に通例なる: [That John did *not* know anything about it] was *still* widely believed.
- 5) たとえば, He's *not still* hanging around here because he has any affection for the place. -Linebarger (1981:20) では because 節中に any があるので not は s 全体を scope としていると考えられる。ところがその否定の scope の中に肯定にしか生じない still があるので, 非文になるはずであるが, 実際は容認可能な文である。また太田 (1980:295-6) も『ルースな使用が間々起るのかもしれない』として, not still に対して明確な答えを与えていない。
- 6) Doesn't Adolf *still* beat his wife? -Horn (1970:321) も類例
- 7) CONVENTIONAL IMPLICATURE は Presupposition との区別で問題になるが, 本稿では Grice のいう語句により慣習的に含意されることを示

すものとする。still not には CONVERSATIONAL IMPLICATURE とし
て、「何らかの変化が期待されている」ということもある。

- 8) 表層の *may not* の内部否定と外部否定の違いについては Hermerén (1978:41) を見よ。
- 9) 否認で強調して言われた場合、次のような *already* も可能: *Mary hasn't already arrived.* -Horn (1978:154)。否認の定義に関しては Dinsmore (1981:78) を参照せよ。
- 10) *conducive negation* については Bolinger (1977:36) を参照せよ。
- 11) *John will/should still be at home.* が 2 通りにあいまいであることについては, Ladusaw (1978:106) を見よ。
- 12) *possibility* には *It is possible for him to be there* と表わせる *theoretical* な可能性もあるが, 本稿では取り扱わない。
- 13) *I want to still be me when I wake up one fine morning and have breakfast at Tiffany's.* -Capote, *Tiffany's* (1958:39) のように *to* 不定詞の中に *still* が生ずることも可能であるので (6a') も考えられる。
- 14) *neg + neg = affirmative* という二重の否定語による *logical entailment* は (4e) のように *overt* な否定語同志による場合もあるし, *covert* な否定語 (たとえば, *surprised* は *surprised that S* が *expect that neg S* を entail するのでこの例) と *not* による次のような場合もある。(いずれも *not still* が可能となるのは, *not* は他の否定要素と結びつき, 直接 *still* を修飾していないからである。)

You should be damn glad that someone wasn't still out to get you. -Baker (1970:182)

参 考 文 献

A. Sources of examples

- Benchley, P. 1974. *Jaws*. Pan Books.
 Capote, T. 1958. *Breakfast at Tiffany's*. Penguin Books.
 Fast, J. and B. 1979. *Talking between the Lines*. Pocket Books.
 Hailey, A. 1965. *Hotel*. Pan Books.
 Hill, C. D. 1978. *An Unmarried Woman*. Avon Books.
 Jaffe, R. 1969. *The Fame Game*. A Dell Book.
 Racina, T. 1980. *Nine to Five*. A Bantam Book.
 Rogers, D. 1979. *The In-Laws*. Fawcett Gold Medal Books.
 Segal, E. 1978. *Oliver's Story*. Panther Books.
 Webb, C. 1963. *The Graduate*. Penguin Books.

B. Linguistic works

- Allerton, D. J. and Cruttenden, A. 1974. "English sentence adverbials: their syntax and their intonation in British English." *Lingua* 34:1-30.
- Baker, C. L. 1970. "Double negatives." *LI* 1:169-186.
- Bolinger, D. 1977. *Meaning and Form*. Longman.
- Crowell, J. L. Jr. 1964. *Index to Modern English*.
McGraw-Hill Book Company.
- Dinsmore, J. D. C. 1981. *Pragmatics, Formal Theory, and the Analysis of Presupposition*. IULC.
- Hermerén, L. 1978. *On Modality in English: A Study of the Semantics of the Modals*. CWK Gleerup.
- Hirtle, W. H. 1977. "Already, Still, and Yet."
Archivum Linguisticum Vol. VIII, No. 1, 28-45.
- Horn, L. R. 1970. "Ain't it hard (anymore)." *CLS* 6, 318-27.
- Horn, L. R. 1976. *On the Semantic Properties of Logical Operators in English*. IULC.
- Horn, L. R. 1978. "Some aspects of negation." In C. A. Ferguson & E. Moravcsik (eds.) *Universals of Human Language* Vol. 4, 127-210. Stanford University Press.
- Ladusaw, W. A. 1978. "The scope of some sentence adverbs and surface structure." *NELS* VIII, 97-111.
- Ladusaw, W.A. 1980. *Polarity Sensitivity as Inherent Scope Relations*. IULC.
- Leech, G. 1971. *Meaning and the English Verb*. Longman.
- Leech, G. and Svartvik, J. 1975. *A Communicative Grammar of English*. Longman.
- Linebarger, M. C. 1981. *The Grammar of Negative Polarity*. IULC.
- 大江三郎. 1978. 『現代英語文法の分析』 弓書房。
- 太田 朗. 1980. 『否定の意味』。大修館。
- Quirk, R. et al. 1972. *A Grammar of Contemporary English*. Longman.
- Sheintuch, G. and Wise, K. 1976. "On the pragmatic unity of the rules of neg-raising and neg-attraction." *CLS* 12:548-57.
- Stockwell, R. P. et al. 1973. *The Major Syntactic Structures of English*. Holt.
- Swan, M. 1980. *Practical English Usage*. OUP.
- Thomson, A. J. and Martinet, A. V. 1980. *A Practical English Grammar*. OUP.